

ピア・サポートを活用した新たな学びの仕組み — 学生が主体的に取り組むキャリア支援プログラムの開発 —

服部典子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

Practice of the New Learning using Peer Support — Development of a Career Support Program that Fosters Students’ Positive Activities for Their Own Career Decisions —

Noriko HATTORI

Ochanomizu University; Student and Career Support Center

The Career Support Center of Ochanomizu University has developed a career support program for students to help them to look for their own career. The program makes use of Peer Support, encouraging the students to work on activities more positively. This is the first case, for Ochanomizu University, to introduce Peer Support into a career support activity. The program consists of “Team Organizing,” “Planning,” “Offering Information,” “Showing Leadership,” “Taking Action,” “Assessing,” and “Reporting.” Through the program, the students voluntarily held several meetings to organize a roundtable conference with students who have successfully gotten job offers from companies, and a roundtable conference with alumnae. Furthermore, the students showed “Leadership” and took “Action” for planning and overseeing events according to the program. It could be seen that the program provided the students with not only a chance for planning career support events but also an opportunity to deliberate on how they should spend their remaining days at the university to enrich their university life.

keywords : peer support, career support , career education, carrier program , university students

はじめに

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターでは、進路選択と就職活動に関する情報提供ならびに実践対策の指導の場として、ガイダンスやセミナーなど講義型のキャリア支援行事を実施している。このキャリア支援行事は、学生が自らの進路選択や就職活動において必要な情報やスキルを得ることを目的としており、年間を通して主として昼休みの時間帯に実施している。また、学生・キャリア支援センターでは、学生が自身のキャリアについて考える機会として、参加した学生同士が交流するワークショップも実施している。さらに、学生がより主体的に自身の進路について探索する機会を提供するために、学生・キャリア支援センターがピア・サポートを活用したキャリア支援プログラムを開発することとした。この新たなプログラムは、平成 28 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プ

ログラム事業（萌芽型）「キャリア教育/支援における新たな学びの仕組み」、平成 29 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム事業（萌芽型）「キャリア支援における新たな学びの仕組み」において実施された。なお、キャリア支援に関するピア・サポートは、同大学では初めての取り組みであった。

本稿では、学生・キャリア支援センターが開発した、ピア・サポートを活用したキャリア支援プログラムの取り組みを報告するとともに、本プログラムの成果と今後の課題を検討する。

プログラムの目的と概要

ピア・サポートを活用したキャリア支援プログラムの目的は、お茶の水女子大学のキャリア教育・キャリア支援活動において、ピア・サポートならびに産業界との連携活動を通じて、学生が自律的にキャリアデザ

インを実現する力を育成することである。具体的には、キャリア支援活動における学生間の相互サポートを組織的に行うために、学生自身がどのような仕組みが必要かを考えて、キャリア支援行事の企画、協力者のネットワーク化をする。さらに、学生がキャリア支援行事を企画し、実施することを目的とした。そして、これらの活動を通じて、プログラムに参加した学生が問題解決力、企画実行力、コミュニケーション力、協働力などを涵養し、自律的に自分自身の包括的な能力を高め、自らのキャリアを考える力をつけることを目的とした。

本プログラムの実施にあたり、学生・キャリア支援センターの教職員（准教授、アソシエイトフェロー、アカデミック・アシスタント）が活動の仕組み作りを支援したうえで、学生が主体となり以下の活動を行った。

- (1) 学生が相互にキャリア支援をするためのピア・サポート組織の設立・運営
- (2) ピア・サポート組織が中心となった産業界などの OG（本学卒業修了生）との交流
- (3) キャリア支援行事（OG 懇談会、内定者懇談会）の企画・運営

また、本プログラムに学生が関わることにより、大学全体に及ぼす効果として次の 2 点が期待された。

- (1) キャリア支援にピア・サポートを取り入れる効果
学生間のピア・サポートが就職支援にまで広がることで、学生間に自律性、ネットワーク力が波及する。ネットワーク力は情報収集力につながるため、就職活動時期が流動的である現在、ますます重要となっている。
- (2) 産業界などの OG との交流による効果
① 「お茶大らしさ」を社会人の視点も取り入れて客観的に考えられ、お茶の水女子大学の学生としての誇りと自信をもち、自律的に進路選択に向き合える。
② OG との交流によって、女子大出身者が乗り越えてきたハンディ（例、就職活動において男子学生とのグループ討議で遠慮がちになる）や「自己表現力が弱い」ことへの克服に取り組むきっかけが得られる。
③ 学生が、企業における大卒女性の活躍の実際と課題に触れることができる。

初年度の取り組み

1. プログラムの運営準備
プログラムの運営準備として、学生・キャリア支援

Table1 2016 年度プログラムの年間計画

時期	実施内容（カッコ内は学生・キャリア支援センターがサポートする内容）
6 月下旬	リーダー顔合わせ、企画内容およびスケジュール確認（参加学生への企画内容説明、今後のスケジュール提案）
7 月初旬	プログラムスケジュール作成、ミーティング日程作成、OG 懇談会に参加いただく企業決定（OG 懇談会協力企業への連絡）
7 月初旬～下旬	ピアサポート参加学生募集（キャリア支援行事等での学生広報）
8 月	全体ミーティング、OG 懇談会実施日程案作成（プログラム運営補助）
9 月	会社訪問、OG 懇談会実施日程決定、学内広報準備（内定者懇談会協力学生への連絡、教室手配、学内広報準備）
10 月 1 日～	学内広報開始（キャリア支援行事等での学生広報）
11 月～12 月	OG 懇談会実施、内定者懇談会実施（運営補助）
2 月～3 月	報告書作成（報告書作成支援、予算報告）

センターの教職員が中心となり、初年度の目標と年間計画を立てた（Table1）。本プログラムの初年度の目標は、(1) ピア・サポート組織を設立し、プログラムを企画運営するリーダーを育成すること、(2) これまで学生・キャリア支援センター主催として開催してきた OG 懇談会と内定者懇談会を本プログラムで実施することとした。また、年間計画（Table1）は状況に応じて見直すことを確認した。

2. ピア・サポート組織の設立

(1) リーダーの選出

本プログラムの目標に従い、学生が主体的にキャリア支援行事の企画と運営に取り組むピア・サポート組織を設立するために、リーダーの学生を育成して、リーダーが後輩達に助言する体勢を整えることとした。リーダーの選出にあたっては、本プログラムが学生の就職活動支援につながることに、学生・キャリア支援センターとの連携や協働が必要であることを考慮して、就職活動を終えた学生からリーダーを選出することとなった。

まず、リーダー候補として、学生・キャリア支援センターの教員が担当するキャリア教育の授業を履修している学生と、自発的に参加を申し出た学生を合わせた 3 名（全員が就職活動を終えた学部 4 年生）と面談を行った。3 名の学生は、学内の公認サークルや NPO、学外サークルなどで積極的に多様な活動に取り組んでおり、当プログラムを担当する准教授、アソシエイトフェローが、3 名をピア・サポート組織のリーダーにふさわしいと判断をした。そして、リーダー候補の学生 3 名より本プログラムの趣旨に賛同することを確認できたため、3 名をリーダーに任命した。

(2) メンバーの募集

リーダー以外の参加学生（メンバー）は、学部や学年を限定せずに募集をすることとした。メンバー募集のために、理学部に所属するリーダーが募集案内のポ

Table2 2016 年度プログラム参加学生の構成

	文教育学部	理学部	生活科学部	交換留学生	合計
1 年	0	0	0	0	0
2 年	0	0	2	0	2
3 年	0	0	1	0	1
4 年	※2	※1	※1	1	5
合計	2	1	4	1	8

※3 名のリーダーは文教育学部、理学部、生活科学部のそれぞれに所属

スター作成と、学生・キャリア支援センターが主催するキャリア支援行事内の広報を担当した。また、3 名のリーダーそれぞれが身近な後輩に広報を行い、学部生 5 名（4 年生 2 名、3 年生 1 名、2 年生 2 名、うち 4 年生 1 名は交換留学生）がピア・サポート組織の一員となった。初年度のピア・サポート組織は、学生・キャリア支援センターによる面談で決定したリーダーと、公募によるメンバーを合わせた合計 8 名の学生で構成された（Table2）。

3. 学生による企画と運営

(1) ミーティングの実施

本プログラムでは、学生が主体的に企画をするキャリア支援行事実施に向けて、学生と学生・キャリア支援センターによるミーティングを実施した（Table3）。ミーティング実施にあたり、授業やサークル活動等に影響がなく、できるだけ多くの学生が参加できるように毎回実施時間を調整した。ミーティングの内容は記録（メモ）としてまとめられて、学生・キャリア支援センター内で共有した。また、ミーティングで話し合われた企画案の具体的な進め方については、リーダーが中心となり SNS 等を活用して学生間で話し合いが行われた。

(2) キャリア支援行事の企画と実施内容の決定

本プログラムで実施するキャリア支援行事の内容は、リーダーの学生が中心となり話し合いが進められた結果、内定者懇談会と OG 懇談会と実施することとなった。この二つの行事は、2015 年度までは学生・キャリア支援センターが行うキャリア支援行事であった。今年度以降、学生が主体的に実施することにより、行事に参加する学生が、就職活動を終えた先輩（内定者）や OG（本学卒業修了生）など身近なロールモデルとの交流に気軽に参加できことと、自身の卒業後の進路を考える機会を得ることができると期待された。

内定者懇談会は、就職活動を終えた内定者への参加協力依頼をする必要がある。そのため、まず学生・キャリア支援センターより、これまでキャリア支援行事等に参加した学部 4 年生、修士 2 年生の学生に協力依

Table3 2016 年度ミーティングの内容

日程／回	ミーティングの内容	学生・キャリア支援センター支援内容
7 月 7 日 第 1 回	【リーダーミーティング】リーダー顔合わせ、学内広報担当決定	企画内容説明、今後のスケジュールを提案
7 月 28 日 第 2 回	【リーダーミーティング】運営方法の確認、実施行事（OG 懇談会、内定者懇談会）の決定	OG 懇談会参加企業への依頼方法を説明、過去に実施したキャリア支援行事の情報提供
8 月 12 日 第 3 回	【リーダーミーティング】内定者懇談会の具体案作成、今後の活動予定の確認、SNS を活用した情報共有の確認	※リーダーが自主的にミーティングを実施、当回は教職員の参加なし。
10 月 4 日 第 4 回	【全体ミーティング】メンバー顔合わせ・自己紹介、今後の予定を確認	プログラムの趣旨説明、OG 懇談会協力企業の説明
10 月 12 日 第 5 回	【リーダーミーティング】キャリア支援行事の開催日程と進め方について	運営方法に関するアドバイス
11 月 7 日 第 6 回	【全体ミーティング】OG 懇談会参加企業への事前訪問について、今後のスケジュール確認	会社訪問時のマナーに関するアドバイス
11 月 28 日 第 7 回	【全体ミーティング】OG 懇談会当日運営について	当日運営スケジュール作成、司会用原稿作成

頼の連絡をすることとした。その後に、ピア・サポート組織のリーダーが直接内定者と連絡を取ることとした。また、内定者懇談会の実施日程は、内定者の授業や卒業・修士論文執筆に影響がないように、11 月下旬から 12 月上旬の昼休みに、3 回実施することとした。内定者懇談会の学内広報は、学生・キャリア支援センターのホームページなどを活用するとともに、メンバーの学生が SNS などを活用して広報をすることとした。

OG 懇談会は、これまで学生・キャリア支援センターが主催するキャリア支援行事参加企業リストを参考にして、協力依頼をする企業の検討が行われた。企業リストのなかで OG が在籍する企業 4 社に対して、学生・キャリア支援センターの教職員より参加意向の打診をするとともに、採用担当責任者を訪問して、プログラムへの協力依頼を行った。また、参加可能な時期や、OG に関する情報などについて意見交換を行い、学生による会社訪問受け入れの承諾を得た。

なお、学生による会社訪問の目的は、学生が直接企業の方に対して OG 懇談会当日のスケジュールを説明することだけではなく、学生自身が会社訪問に向けて必要な準備を考えることであった。会社訪問に向けて、リーダーとメンバーの 2、3 名で構成されたグループごとに担当する企業を決めて、訪問先の担当者と直接連絡を取り合い、訪問日程の調整を行った。また、学生は、リーダーを中心に自主的なミーティングを数回行い、企業担当者に説明する内容を検討するとともに、会社訪問時に必要となる基本的なマナーの確認を行った。企業訪問後は、その内容を各自がレポー

トとしてまとめて報告することとした。この会社訪問は、就職活動を終えたリーダーには自身の経験を後輩（メンバー）に伝える機会となり、近い将来に就職活動を迎えるメンバーは日程調整や社会人と接する際のマナーなど、実践的なスキルを身につける機会となった。

4. キャリア支援行事の実施

(1) 内定者懇談会

実施日：3 日間（11 月 25 日、11 月 29 日、12 月 8 日）
内容：第 1 部（12：30 ～ 13：10）内定者が就活体験談を語る

第 2 部（13：20 ～ 14：00）内定者と参加者がグループに分かれてフリートーク
協力内定者：10 名（学部 4 年生 8 名、大学院修士 2 名）
参加学生数：40 名（3 日間合計）
実施体制：学生・キャリア支援センターの教職員が教室設営と司会を担当し、学生はその運営補助を担当した。

(2) OG 懇談会

実施日：3 日間（12 月 5 日、12 月 8 日、12 月 13 日）
内容：第 1 部（16：50 ～）OG からのお話
第 2 部（～ 17：50）質疑応答などフリータイム
参加学生数：25 名（3 日間合計）
実施体制：リーダーが中心となり教室準備や司会進行、運営補助など各日程の担当を決めて実施された。

5. 報告書の作成

初年度のプログラムに参加した学生は、OG 懇談会参加企業への会社訪問の内容と、OG 懇談会の運営を通して気づいたことや学んだことをレポートとしてまとめた。また、ピア・サポート活動全体への自身の取り組みや、活動を通して得たことについてもレポートとしてまとめた。この学生のレポートは、学生・キャリア支援センターの教職員により編集され、「平成 28 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム（萌芽型）ピア・サポート事業報告書」としてまとめられた。

6. 初年度の振り返り

本プログラムの初年度の目標の一つは、ピア・サポート組織を設立し、プログラムを企画運営するリーダーを育成することであったが、文教育学部、理学部、生活科学部の 3 学部から各 1 名、合わせて 3 名の学部 4 年生がリーダーとして積極的にプログラム

に関わったことにより、企画運営がスムーズに進められた。また、学部 2、3 年生のメンバーが、リーダーから会社訪問時のマナーなど基本的なふるまいを学ぶなど、初年度より学生による主体的な活動が行われたと考える。初年度の実績を踏まえて、今後もプログラムが継続され、学部や学年が異なる様々な学生がプログラムに参加することにより、同大学の学生ならではの企画が生まれることが期待された。さらに、リーダーとメンバーで構成される学生組織がより主体的な活動をするために、プログラム参加学生の募集時期を見直し、学生の活動を前期（4 月～ 8 月）から開始することで活動期間が長くなり、学生同士がコミュニケーションをとる機会を増やすことができると考えられた。

2 年目の取り組み

1. プログラムの運営準備

学生がより主体的に取り組むプログラムを開発するために、学生・キャリア支援センターの教職員により、プログラムで取り組むテーマと活動内容が再構築された（Table4）。学生が取り組むテーマは、「チームづくり」「プランニング」「情報発信」「リーダーシップ」「行動力」「評価」「報告」の 7 つで構成され、それぞれのテーマに沿った活動予定と、具体的に取り組む活動内容が示された（Table4）。この再構築されたプログラムに基づき、初年度に引き続き 2 年目においても内定者懇談会と OG 懇談会を実施することとし（Table5）、学生・キャリア支援センターの教職員が年間スケジュール（Table6）を立てた。

Table4 2017 年度取り組むテーマと活動予定

テーマ	活動予定	活動内容
チームづくり	企画に向けての準備	・学生がプログラム運営に必要な、聴き方・話し方・まとめ方・伝え方の基本と、多様な価値観を受入れてプログラムに取り組む力を、ワークショップ形式で身につける。
プランニング	OG へのコンタクト	・学生をグループ分けして、各グループでプログラムに取り組む。 ・学生が企業と日程調整を行い、会社訪問をして、プログラムについて事前説明をする。
情報発信	学内広報	・学生が OG 懇談会の学内広報に向けて、どのような方法がよいかを検討する。 ・ポスターなど広報資料を学生が制作する。
リーダーシップ 行動力	当日運営	・学生が当日の運営を担当して、参加学生が積極的に行事に参加できるように促す。
評価 報告	運営報告	・学生が取り組んだプログラム内容を報告書などにまとめる。

Table5 2017 年度支援行事と実施時期

	プログラム内容	実施時期
内定者懇談会	就職活動を終えた内定者（学部 4 年生、修士 2 年生）の協力を得て実施する。内定者への協力依頼は学生のネットワークと学生・キャリア支援センターからの依頼とする。	10 月～11 月
OG 懇談会	卒業修了生（OG）の協力を得て実施する。OG への協力依頼は、学生・キャリア支援センターより行う。昨年同様に、学生が事前の会社訪問を行う。	11 月～12 月

Table6 2017 年度プログラムの年間計画

時期	実施内容※
4 月上旬	（学生・キャリア支援センター主催のガイダンス等でプログラム参加学生を募集）
5 月 19 日	キックオフミーティング実施
5 月下旬～8 月	全体ミーティング、内定者懇談会および OG 懇談会の企画、活動報告書作成
10 月初旬	（キャリア支援行事等での学生広報）
10 月中旬	会社訪問、学内広報準備
10 月下旬	（内定者懇談会協力学生への連絡、教室手配、学内広報準備）
11 月中旬～下旬	内定者懇談会実施（運営補助）
11 月～2 月	OG 懇談会実施（運営補助）

※カッコ内は学生・キャリア支援センターがサポートする内容

2. 新たなピア・サポート組織の設立

2 年目の活動に向けて新たなピア・サポート組織を設立するにあたり、初年度に参加した 3 名の学生より継続して参加する意思が示された（Table7）。継続して参加する学部 3 年生 2 名により、学生・キャリア支援センター主催のガイダンスでプログラム参加学生の募集を行うとともに、学内にポスターを掲示してメンバー募集をしたところ、13 名の学生の応募があった（Table7）。13 名の内訳は、文教育学部、理学部、生活科学部の全学部の学生が参加し、学部 1 年生から 4 年生の全学年で構成された（Table7）。

3. 学生によるキャリア支援行事の企画

(1) キックオフミーティングの実施

2017 年度の活動テーマである「チームづくり」の取り組みとして、キックオフミーティングを実施し、昨年度から継続して参加する学生 3 名と、新たに応募があった学生全員が参加した。キックオフミーティングでは、2016 年度のメンバーであった学生（3 年生）が司会を担当し、学生がより主体的にプログラムに取り組む雰囲気をつくり出すこととした。また、昨年度のプログラムに参加した 3 名の学生より、自分達が行った活動内容や苦勞したことなどが説明され、参加者全員がこれまでの活動経緯を共有した。その後、今後の活動でメンバー全体をまとめるリーダーを決めるために候補者を募ったところ、昨年のメンバーでありキックオフミーティングの司会を担当する学生

Table7 2017 年度プログラム参加学生の構成

	文教育学部	理学部	生活科学部	合計
1 年	3	0	1	4
2 年	5	0	2	7
3 年	0	1	※2	3
4 年	1	0	※1	2
合計	9	1	6	16

※生活科学部 3 年生（2 名）と 4 年生は昨年より継続して参加

（3 年生）が立候補して、参加者全員の同意によりリーダーに任命された。さらに、学生間の情報共有の方法（ミーティングを実施する、SNS を活用する）が決められた。

学生・キャリア支援センターは、本プログラムに参加する学生個人の目標や各自が取り組みたいと考えていることを把握し、今後のピア・サポート活動の支援に役立てるために、キックオフミーティング参加学生に対してアンケートを実施した。

(2) 全体ミーティングの実施

キックオフミーティング以降は、本プログラムで実施するキャリア支援行事の具体的な内容と運営方法を決めることを目的として、学生による全体ミーティングを実施した（Table8）。全体ミーティングはメンバーの学生が授業等の影響がなく参加することができるよう昼休みの時間帯に実施して、昼食を取りながら話し合いを行うこととした。また、ミーティングの内容はリーダーが決めることとし、事前にリーダーと学生・キャリア支援センターの教職員がリーダーミーティング（ミーティングが実施できない時は電子メールで内容確認）を行い、進捗状況の確認と情報共有を行った（Table8）。

(3) キャリア支援行事の企画と実施内容の決定

内定者懇談会と OG 懇談会の実施に向けて、それぞれの行事を企画する学生グループが作られ、各グループのリーダーを中心としてキャリア支援行事の具体的な企画が立てられた（Table9）。二つのキャリア支援行事の企画案は、ピア・サポート組織の学生による全体ミーティングでその内容について実施可能であるか検討されるとともに、不明な点や疑問点などについて話し合いが行われた。全体ミーティングでの検討を経て、内定者懇談会は 10 月下旬に 3 日間開催することと、登壇する内定者は学生・キャリア支援センターの教職員が協力して参加協力を依頼することとした（Table9）。また、OG 懇談会は、11 月に 4 回の実施を予定することと、実施時間は時間割に合わせて 16：40 開始となった（Table9）。なお、OG 懇談会参加企業への協力依頼は、初年度に引き続き学生・

Table8 2017 年度ミーティングの内容

日程／回	ミーティングの内容	学生・キャリア支援センター支援内容
5 月 16 日 第 1 回	【キックオフミーティング】顔合わせと自己紹介、プログラム説明、今年度の予定確認、リーダー選出	教室手配、学生への連絡、企画内容説明、今後のスケジュールを提案、ミーティングメモ（議事録）作成
5 月 25 日 第 2 回	【リーダーミーティング】各行事の担当者の決め方について、メンバー内で実施するグループワークの方法を確認	ミーティングメモ（議事録）作成
5 月 25 日 第 3 回	【全体ミーティング】企画立案のためのグループ分け、グループリーダー選定、運営方法の確認、次回までに行事企画案作成する、グループワーク	教室手配、グループワークファシリテーター、昨年度報告書を今年度のメンバーに配布、ミーティングメモ（議事録）作成
6 月 29 日 第 4 回	【リーダーミーティング】広報の確認、業界研究の進め方を確認	
6 月 29 日 第 5 回	【全体ミーティング】行事企画案発表、メンバー内で質疑応答	教室手配
7 月 13 日 第 6 回	【リーダーミーティング】進捗状況の共有、今後のスケジュール確認	
7 月 13 日 第 7 回	【全体ミーティング】各行事の日程決定、業界研究について	ミーティング配布資料作成
10 月 3 日 第 8 回	【全体ミーティング】各行事の詳細決定、会社訪問に向けた準備（マナー含む）、業界・企業研究（発表）、広報確認	教室手配、ミーティング配布資料作成
10 月 17 日 第 9 回	【全体ミーティング】内定者懇談会当日運営について、OG 懇談会の事前会社訪問について、広報について	教室手配、学内広報の手続き説明、会社訪問時のマナーについてアドバイス
11 月 6 日 第 10 回	【全体ミーティング】業界・企業研究（発表）	教室手配、学生作成資料印刷
12 月 19 日 第 11 回	【全体ミーティング】活動の振り返り、ピア・サポート組織の名称について	教室手配

キャリア支援センターより行うことと、学生が事前に参加企業に会社訪問をすることが決められた。

4. キャリア支援行事の実施

(1) 内定者懇談会

実施日：3 日間（10 月 24 日、10 月 25 日、10 月 26 日）
内容：第 1 部（12：30～13：10）内定者が就活体験談を語る

第 2 部（13：20～14：00）内定者と参加者がグループに分かれてフリートーク
協力内定者：9 名（学部 4 年生 6 名、大学院修士 3 名）
参加学生数：75 名（3 日間合計）
実施体制：ピア・サポート組織の学生が受付、会場誘導、司会など運営を担当。学生・キャリア支援センターの教職員は教室設営など運営を補助した。

(2) OG 懇談会

実施日：4 日間（11 月 14 日、11 月 15 日、11 月 17 日、11 月 22 日）
内容：第 1 部（16：40～）OG からのお話

第 2 部（～18：10）質疑応答などフリータイム
参加学生数：81 名（4 日間合計）
実施体制：リーダーが中心となり教室準備や司会進

Table9 2017 年度キャリア支援行事の企画

	内定者懇談会	OG 懇談会
開催時期	10 月下旬で昨年より早める。最低 3 回実施。	昨年同様 11 月頃に 4 回程度実施。
開催時間	授業後だとサークルやアルバイト等で来ることができない人が多くなってしまうため昼休みを利用すべき。	昨年度同様、16：40 から 90 分間。
会場	プロジェクターが使える、かつ昼休み後が空いている教室。	大教室ではなく机を動かせる狭い教室。
内容	技術職、総合職、一般職など混合で行うのがよい。文理で分けると参加者は取捨選択が可能となるが、文理の垣根をなくした方が、選択肢が広がり良いのではないか。	講演（45 分程度）と質疑応答、個別質問タイム。質疑応答では質問の例などを書いたレジュメを参加者に配り、参加者から自発的に質問ができるような雰囲気を作る。
登壇者に話してほしいこと	第 1 部：志望動機、就活スケジュールなど 第 2 部は自由に懇談 1、2 部と分けてとりあえず話を聞いてみたい人やじっくり話を聞いてみたい人など各々の目的にあった実施形式が適切ではないか。	どうしてこの業界を選じたのか、企業選びの軸、入社前と入社後のギャップなど。具体的な質問は企業が決定してから検討する。
広報	広報に力を入れる。広報する際、具体的な会社名、氏名をあげてよいのか？ キャリア系授業内で紹介してもらおう、OchaMail [®] 、SNS の活用、掲示など。	OchaMail [®] への掲載、SNS の活用、ポスターやチラシを学生が作成する。硬い雰囲気ではなくフワッとした感じで親しみを持ってもらうために OG 情報や、学生が主催していることを掲載する。
その他	内定者は学生・キャリア支援センターに紹介していただき、アポイントメントはこちらで取る。登壇者に事前にバイオグラフを記入してもらい当日投影する。	入社 2～3 年目の方、すでに家庭を持っていらっしゃる方、キャリアを積んでいる方など、どちらも呼びたい。事前に参加してくださる OG の企業・業界研究をする。事前に会社訪問をする。

※お茶の水女子大学の学生および教職員に毎月 2 回配信されるメールマガジンの愛称
注）学生の企画案をもとに筆者が表にまとめた

行、運営補助など各日程の担当を決めて実施された。学生・キャリア支援センターの教職員は教室設営など運営を補助した。

5. 報告書の作成

初年度に引き続き、2 年目においても参加した学生によって作成されたレポートを学生・キャリア支援センターの教職員が編集し、「平成 29 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム（萌芽型）ピア・サポート事業報告書」としてまとめた。

初年度と 2 年目の報告書作成経緯の違いは、初年度は学生がキャリア支援行事の実施後に書いたレポートをまとめる形であったが、2 年目は報告書の作成は本プログラムにおいて必ず取り組む活動として、キックオフミーティングで参加学生全員に共有された点である。プログラム当初から報告書作成が計画されたことにより、本プログラムの参加動機や、キャリア支援行事の企画段階（5 月から 7 月）の活動で気づいたこと、ピア・サポート活動を通して身につけたいことをレポートとしてまとめることができた。このことにより、学生は自分自身がどのような目的や目標を持って

ピア・サポート活動に参加したのかを振り返り、さらに今後キャリア支援行事の運営を通して身につけたいスキルや、新たな経験への期待などをレポートの形で言語化することができた。また、全プログラムを終えた後に学生が書いたレポートでは、学生がピア・サポート活動を通して挑戦したことや上手くできなかったこと、自らの意識や行動の変化、社会で働くことに関する自身の考え、今後の大学生活の過ごし方など、学生が本プログラムに参加したからこそ得た気づきが書かれるとともに、学生自身の新たな目標や意欲が報告書に示された。

6. 2 年目の振り返り

2 年目のプログラム運営では学生が取り組むテーマとして、「チームづくり」「プランニング」「情報発信」「リーダーシップ」「行動力」「評価」「報告」が挙げられていた。2 年目の活動を振り返ると、キックオフミーティングや全体ミーティングなど、参加学生全員が「チームづくり」を意識しながら、学生それぞれの特性を活かしながらキャリア支援行事实施に向けた「プランニング」に取り組むことができた。また、全体をまとめるリーダーと、二つの支援行事のグループをまとめるリーダー、広報を担当するリーダー、当日運営の役割分担など、プログラムの企画や運営に合わせた「リーダーシップ」と「行動力」が発揮された。「情報発信」については、学生が自ら企画したキャリア支援行事をより多くの学生に知ってもらい、行事に足を運んでもらうために、どのような学内広報をすればよいのか戦略を立てる際に発揮された。また、「評価」に関しては、内定者懇談会終了直後に、学生が主体的に運営内容を振り返り、その後に行われる OG 懇談会に向けて当日の運営方法が再検討されるなど、プログラムの運営全体を通して、学生による実践的な評価が行われた。「報告」は全体ミーティングを活用してキャリア支援行事の企画案や進捗状況が報告されるとともに、全体ミーティングに参加できなかった学生には学生間で SNS などを活用して情報が共有されるなど、学生による主体的な報告が行われた。さらに、学生が取り組んだ活動を報告書としてまとめることにより、学生自身が自らの意識と行動の変化を自覚して、大学生活を充実させるために今後どのように行動すればよいのかを真剣に考える機会を提供することができた。

おわりに

本稿では、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが開発した、ピア・サポートを活用したキャリア支援プログラムの取り組みについて、2 年間にわたる活動を報告してきた。今後もプログラムを改良する余地があるものの、ピア・サポートを活用し、学生が主体的にキャリア支援行事の企画や運営に取り組むことが、同大学の新たな学びの仕組みとして機能したと考える。

本プログラムに参加した学生全員が自分の意志で参加しており、参加時点で明確な目標を持っていた。その目標のいくつかを挙げて整理すると、「お茶大生のキャリア観をよりよいものにしたい」「お茶大生の意識改革」「お茶大生の欲しがるような情報をしっかりイベントを通して伝達する」など“学内の学生生活全般に関すること”と、「ビジネスマナーを身につけたい」「授業・サークル以外で自分を成長させたい」「OG の先輩から色々なことを学びたい」など“自身の成長やキャリア選択に関すること”であった。学生のこのような明確な目標を実現する場として、本プログラムが果たす役割は大きいと考える。

キャリア支援行事の企画運営では、本プログラムに参加した学生は、当初は参加者視点でキャリア支援行事の企画に取り組んでいたため、実施時間や会場選定などを決めることさえ漠然としており、具体的にどのような企画を作りたいと考えているのかを言語化できず、計画案としてまとめることができなかった。しかし、複数回実施した全体ミーティングにおいて、学部学年に関係なく積極的に意見を交換することにより、「自分達が企画と運営をするのだ」という意識が明確となり、もともと学生自身が持つ特性や性格を活かしながら、状況に合わせて行動することができたと考え

る。今後に向けて、本プログラムが新たな学びの仕組みとしての機能を高めるために、2 つの側面から述べる。まず、プログラムに参加した学生の意識や行動の変化を客観的にとらえることにより、進路選択や就職活動など学生のキャリアデザインを包括的に支援することができると考えられる。本稿で報告した報告書の作成に加えて、アセスメントなどを導入することにより、プログラム終了後においても自ら実践的な学びの場に関わることが期待される。2 つ目として、本プログラムの成果を大学全体に広げるために、本プログラムで学生が実施するキャリア支援行事の種類や回数を増や

すなどして、より多くの学生が参加できるプログラムを構築する必要があると考える。

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター（2018）
平成 29 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム（萌芽型）ピア・サポート事業報告書．

参考文献

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター（2017）
平成 28 年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム（萌芽型）ピア・サポート事業報告書．

2018 年 2 月 1 日 受稿